

2008年11月7日（金）10:00～12:30

東京大学 福武ホール ラーニングシアター  
入場無料 ※事前申込みが必要です



【司会】 宮尾龍蔵（神戸大学 経済経営研究所）

【報告】 「現代アフリカと植民地戦争の記憶」

永原陽子（東京外国語大学 アジアアフリカ言語文化研究所）

「日本中世の戦争の記録と記憶」

高橋典幸（東京大学 史料編纂所）

「ロシア人とナポレオン戦争の記憶」

越野剛（北海道大学 スラブ研究センター）

【コメント】 山室信一（京大 人文科学研究所）

# 戦争 過去と向き合おう

国立大学附置研究所・センターは、我が国の学術研究の中核として、幅広い研究を先端的に推進し、それを通して大学院教育を行い、研究者・技術者の育成を行っています。人文・社会系の研究所・センターで構成される国立大学附置研究所・センター長会議第3部会は、その果たしている役割を、学生・大学の教職員を含めて広く知っていただくため、シンポジウムを開催してきました。

「なぜ戦争は起こるのか」。今回、第3部会のシンポジウムでは、人間の戦争観にとりわけ重要な意味を持つとして、研究が進められてきた、過去の戦争の〈経験〉や〈記憶〉に焦点をあて、この問題の先端的な研究動向を紹介したいと思います。

【お問合せ・お申込み先】

東京大学史料編纂所 <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>  
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 Tel:03-5841-5997 (代)  
インターネット：<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/footer/seminar-entry.html>  
からお申し込みください。折り返し、ハガキもしくはE-mailで返信を差上げます。当日はその返信通知をご持参下さい。

※往復ハガキまたはインターネット上の参加申込フォームにて、「第三部会シンポジウム参加希望」と明記の上、住所・氏名（ふりがな）・電話番号をご記入になりお申し込み下さい。  
※先着順に、定員に達した時点で締め切ります。  
※お申し込み締切は10月末日必着です。